

屋根のシート張り 講習会 資料

作成：震災がつなぐ全国ネットワーク

2018年9月作成、10月更新

講習会の組み立て

- シート張りの必要性を認識する
→業者でないNPO(ボランティア)がシートを張る意義
- 材料選び(張り替えの原因を理解する)
→長持ちする材料で張り替え回数を減らす
- 安全確保(配慮)と張り方のコツ
→安全は最優先 張り方のコツを知って、より安全に
- 危険な張り方を知っておく
→できる限りの危険は事前に除去する
- あると便利な道具類
→道具があることで安全性と効率が格段にあがります

シート張りの必要性を認識する

なぜシートを張るのか：地震で屋根が破損 → 雨漏りを防ぐ（家屋と住環境の保全）
いつまで張るのか：屋根の修理着手まで（対象棟数が多いと長期間かかる）
そもそも・・・：屋根のシート張りを生業にしている業者は存在しない
→高所作業の経験のある業種が暫定的に対応している

NPOやボランティアは：熊本地震(2016)や鳥取県中部地震(2016)、
島根県西部の地震(2018)の対応経験により試行錯誤を繰り返し、独自進化してきた

高所活動は多大な危険を伴う：安全第一最優先

- ・高所での活動は、そもそも危険を伴う
転落により死に至る場合もあるため、安全対策は必須（甘くみないこと）
- ・シートが飛ぶ ・土嚢などの落下 ・土嚢の中身の落下
などにより、自身のみならず、他人にも危険が及ぶ可能性がある



安全に長持ちするシートの張り方を知ることで、様々なリスクを下げ、安心を得る

シートを張る人は・・・

- ・業者 ・自身 ・NPOやボランティア など様々

安全確保のルール、材料選び、張り方のコツ、などの共通認識が有効

材料選び(強度や価格を加味しての推奨)

【ブルーシート】

- ・#3000以上の厚さ
- ・可能であれば
シルバーシート
(ただし、高額)



【土嚢袋】

- ・UV対応(国産)
- ・白は劣化早い
- ・中身は砂か土



白しかない場合は3枚重ねで使用

【ひも、ロープ】

- ・農業用マイカ線
- ・ナイロンロープ
は劣化が早く、
切れやすい



張り替えの原因

【剥がれ】

- 押さえや固定が不十分
- ひもやロープが切れる



【破れ】

- 劣化（特に紫外線）
- 擦れ



【水漏れ】

- 材料の選択ミス（前述）、張り方の問題



安全配慮と効果

【危険回避】

- 張り替え頻度の減少、シートの飛散・土嚢等の落下の防止

【家屋の保全】

- 修理までに雨漏りを防ぎ、家の痛みを抑える



【依頼者の安心】

- 生活再建に向けて意識が前進する



シートは野地板に巻きつけ、タッカーで固定

張り方のコツ



野地板を使用し、辺で押さえる

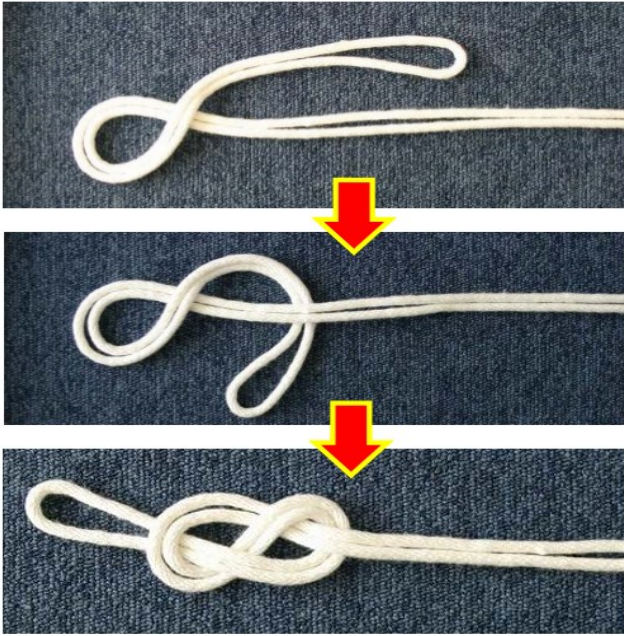


地上で準備してから屋根に上げて広げる

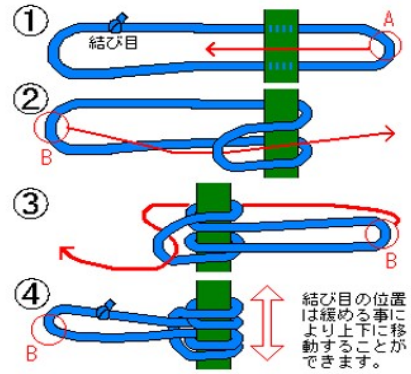


ロープの結び方 (Webを参照)

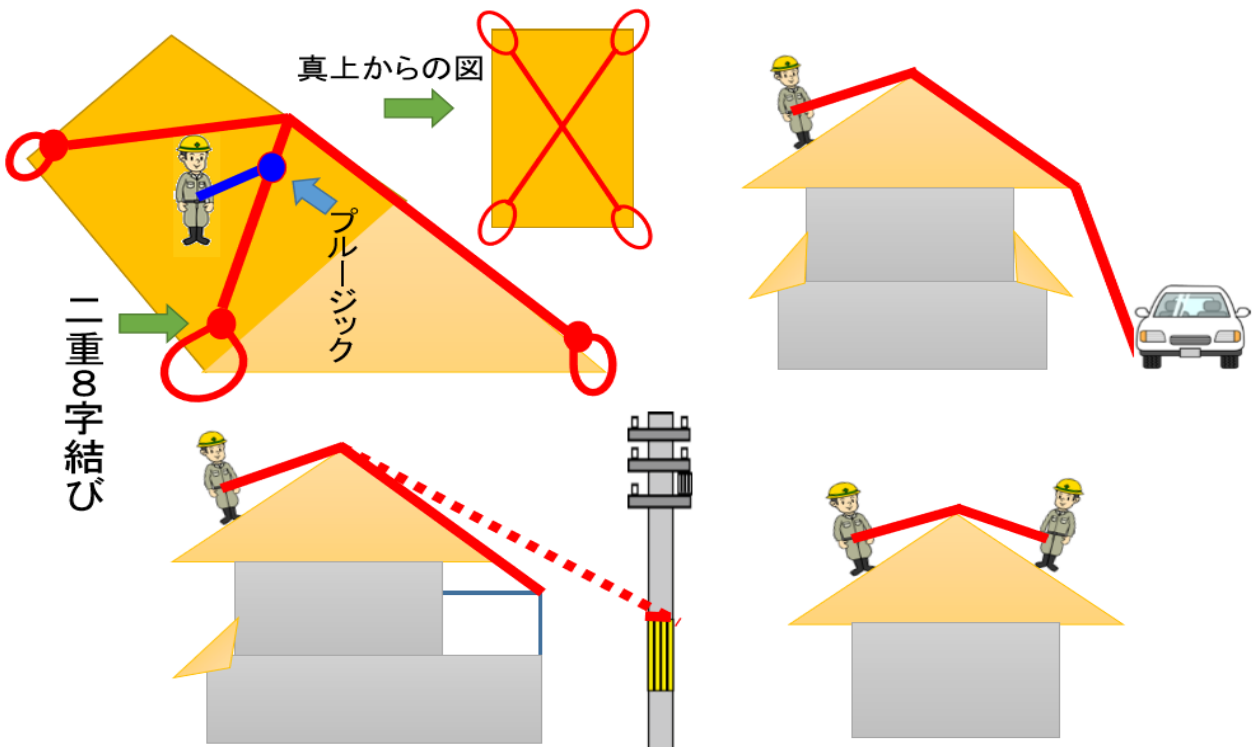
二重8字結び



プルージック



ザイルを使い、安全を確保する



安全帯を使って安全確保



これは危険!!! 安全に勝るものはない



ブロック置いただけ
落下の危険性大



シートの押さえがなく
擦れて劣化が早まる
飛散の危険性もあり



シートの裾に瓦やブロックが宙づり
ひもが切れると落下し危険性大



脚立や梯子の
向きが逆



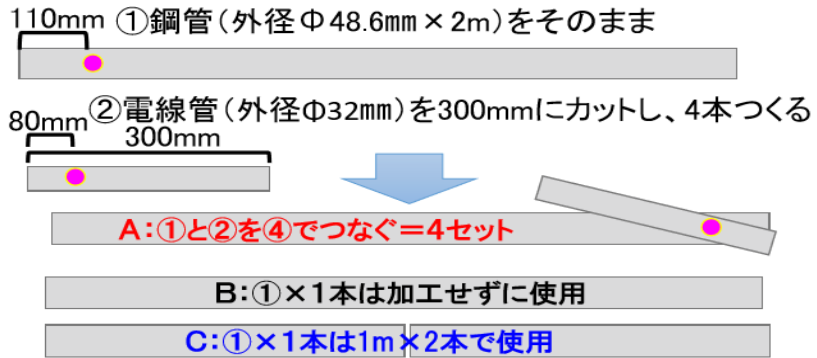
高くなれば
不安定になる

補助具を使い
安定させる

【その他の危険等】

- ・単独作業
- ・梯子に2人以上乗る
- ・ヘルメット未着用
- ・高所からの道具の落下
- ・安全帯未使用
- ・熱射病、熱中症
- ・屋根に土が残っている
→土が足元を滑らせる
- ・屋根は少しの水分で滑る
→小雨でも即中止すること

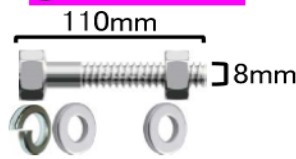
特許もの?! 梯子の安定がハンパない



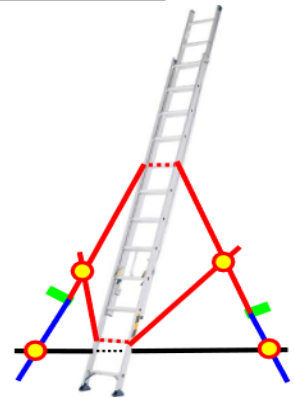
③自在クランプ



④ボルト&ナット



⑤鋼管ジョイント



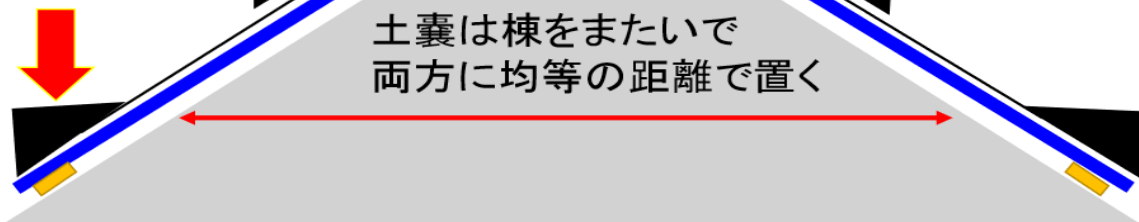
★必要な部品・資材

- ①鋼管(外径Φ48.6mm×2m)6本
- ②電線管(外径Φ32mm×2m)1本
- ③自在クランプ 4つ
- ④ボルト&ナット(Φ8mm×110mmを4組)
※ワッシャー×2、スプリングワッシャー×1
- ⑤鋼管ジョイント2つ

シートの押さえ方で決まる!

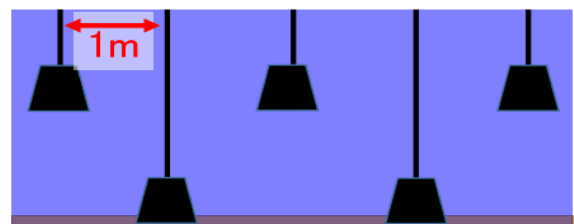
土嚢袋はUV対応(国産)がおすすめ
土嚢の中身は砂がベスト
片手で持てる重さで!

野地板を押さえることで
辺で押さえる
ことができる



紐は
マイカ線

土嚢で押さえる場合、幅は1mピッチ



土嚢袋を使わない茨木方式(工法)

土嚢袋はシートの押さえに必須だったが、屋根修理の際には全ての土嚢を屋根から降ろすだけでなく、処分にも費用がかかる場合がある。土嚢を降ろす手間が省け、処分費用の心配もない工法を紹介します。

※特別に必要な道具類



★インパクトドライバー
1万円(DIY用)~6万円(プロ仕様)
※電動ドライバーとインパクトドライバーは異なります

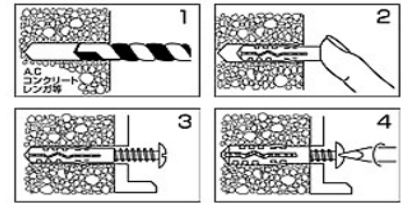


★アンカー と ビス(ネジ)
アンカー1個あたり、5~10円程度
ビス(ネジ)1個あたり、5円程度



★ドリルビット(タイル・瓦用)
インパクトドライバーに接続する
アンカーのサイズに合わせて購入
1,000円程度

◆取付手順

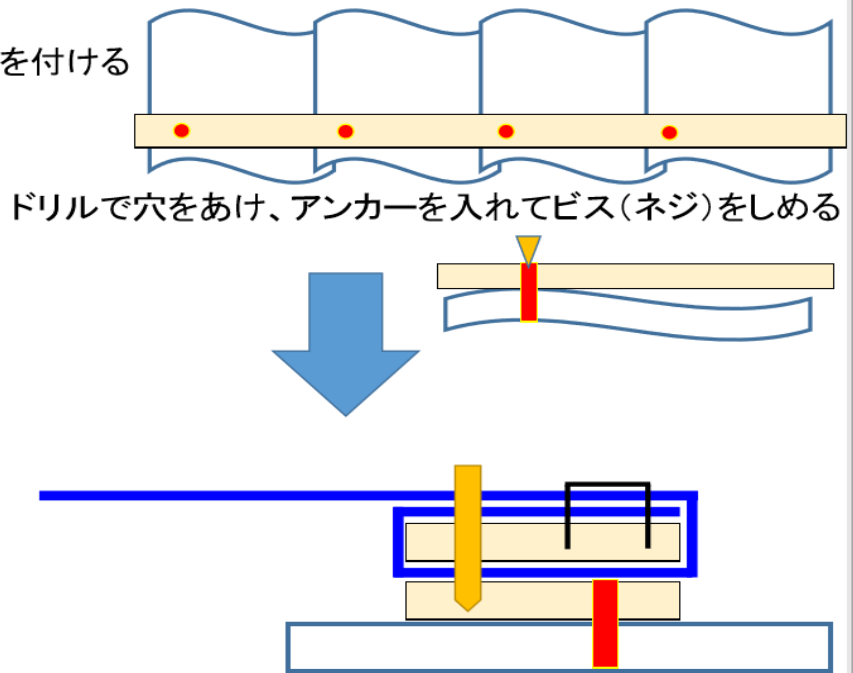


土嚢袋を使わない茨木方式(工法)

壊れていない瓦に下地板を付ける



下地板に合わせて採寸したシートを被せて固定



あると便利な道具



荷締ベルト※梯子の固定
300~500円



ハサミ・カッター



落下防止ストラップ
100~500円



防水テープ
500~1,000円



タッカー(ハンマー型)
4,000~6,000円



タッカー
1,000~5,000円

※屋根の掃除用 滑り防止のため

刷毛・ブラシ



ほうき



バケツを加工したチリトリ



スケール
500~3,000円

安全な作業のために



地下足袋2,000~3,000円



ハイパーブイシューズ3,000円



ザイル(10mm×30m)
10,000円程度



腰バッグ
3,000~10,000円



カラビナ
1,500~2,000円



ヘルメット
2,000円~

安全帯



フルハーネスタイプ
15,000~30,000円



チェアタイプ
10,000~15,000円



腰ベルトタイプ
3,000~10,000円